

## 「トルコ・シリア地震 | 不安な仮設住宅での生活の中に集い安らぎの場所を」 プロジェクトご支援のお願い

九州大学大学院人間環境学研究院 教授  
BECAT副センター長 末廣香織

2023年2月に発生したトルコ・シリア地震では、トルコだけでも5万人以上の死者を出し、300万人が住む場所を失うという甚大な被害が報告されました。こうした被災者に対して現地では、膨大な数のコンテナ型仮設住宅が供給されています。

震災直後には、現地の悲惨な状況や社会の混乱が伝えられていましたが、数ヶ月が経って、ようやく被災者のための仮設住宅の建設が進み、現地の大学や行政とも協力できることも決まったため、仮設住宅団地内に集いの場を作るプロジェクトを立ち上げました。末廣研究室に在籍するトルコ人留学生アイシェ・ニハン・ダゴグルは、震源地に近い被災地の出身であり、彼女が中心となってプロジェクトを進めます。また本プロジェクトは、大学での研究成果を社会実装する、「環境をテーマにした建築研究教育センター・九州大学BeCAT」の活動の一環となります。

これまで私たちは、2016年熊本地震をきっかけにして、九州の建築系大学と学生の組織「KASEIプロジェクト」を立ち上げ、どうしても殺伐としがちな仮設住宅の環境改善に取り組む活動を続けてきました。また熊本地震では、世界的建築家である伊東豊雄氏が中心となって計画した木造の集会所「みんなの家」が各仮設住宅団地に建設されました。狭い仮設住宅での



地震で破壊された街

建設予定地のコンテナ型仮設住宅

非常に狭い仮設住宅の内部

生活は不自由なことも多く、交流の機会も限られます。この小さな集いの場での様々な活動が、被災した方々の生活に潤いを与え、思い出を作ってきました。

現地の仮設住宅団地は、日本以上に過密な状況であり、被災者の皆さんは不安で不自由な日々を送っています。私たちは、これまでの経験を活かして、必ずやプロジェクトを実現したいと考えています。ご支援の方法として、九州大学クラウドファンディングの仕組みを使わせていただきます。ご寄付の程是非よろしく願いいたします。

**ご支援方法：九州大学クラウドファンディング 九州大学 x readyfor**

「トルコ・シリア地震 | 不安な仮設住宅での生活の中に集い安らぎの場所を」

目標金額：250万円

募集期間：2023年11月8日(水)～2023年12月22日(金)まで

ウェブサイト：[https://readyfor.jp/projects/becat\\_turkey](https://readyfor.jp/projects/becat_turkey)

※本プロジェクトへのご寄付は、九州大学への寄付として受け付けられ、税制上の優遇措置を受けることができます。目標金額に満たない場合、寄付金は全額返金となります。

お問い合わせ：九州大学大学院人間環境学研究院 BeCAT事務局

Email：[becat.office@arch.kyushu-u.ac.jp](mailto:becat.office@arch.kyushu-u.ac.jp)

九州大学クラウドファンディング：[https://readyfor.jp/lp/kyusyu\\_univ/index.html](https://readyfor.jp/lp/kyusyu_univ/index.html)



## プロジェクトの概要

対象地の仮設住宅は、コンテナ型で面積も約21m<sup>2</sup>と非常に小さいにも関わらず、平均して4人家族が暮らしています。現地では、とにかく住む場所を確保することが第一で、政府の資金も限られているために、被災者が自由に使える集いの場はどうしても後回しになります。子どもたちが集まって遊べる場所も、高齢者が一緒に伝統のお茶を飲む場所もないため、みなさん暑い中でも外に座って過ごすしかありません。

本プロジェクトは、こうした仮設住宅団地の中に、小さいながらも皆さんの憩いの場となる木造の集いの場を建設するものです。現地の行政担当者と打ち合わせ、カフラマンマラシュ市にある仮設住宅団地の一角を敷地にすることになりました。

この集いの場には、日本と同じように、靴を脱いで床座で生活する習慣のあるトルコに合わせて木の床を作り、その上に大きな屋根を架けます。閉鎖的な外壁は設けず、夏と冬で建具を開け閉めする仕様とします。夏には時に40度を超える暑さにもなりますが、湿度が低いために、日差しを遮って風を通せば比較的過ごしやすい気候です。冬の気温はかなり寒くなりますが、建具で風を遮れば、ある程度は過ごせるでしょう。軒下には流し台を設けて、お茶を飲みながらおしゃべりするのが好きな彼らのニーズに応えます。時には料理を持ち寄って宴会を催すこともできるでしょう。



建設する集いの場の完成イメージ

建物の構造体には現地産の松の木を使い、基礎には現地のコンクリートブロックを使う予定です。屋根には軽量で余震時でも倒壊の心配がない日本のテント材（太陽工業(株)ご提供）を使います。建物の建設は、現地の施工業者さんと大学の協力を得ながら、日本から数名の九州大学の学生やKASEIメンバーの学生も参加して進める予定です。

## プロジェクトの展望

現地の被害状況は甚大であり、あまりにも多くの仮設住宅が建設されている状況のため、今回のプロジェクトが実現したとしても、その恩恵を受けられる方々は限られています。しかし、これまで私たちが「KASEIプロジェクト」や「みんなの家」で経験してきたことは、どのような被災地の仮設住宅団地にも共通する課題の対応策になると考えています。現地の大学と学生が参加することもあり、これまでの経験とノウハウを彼らに伝え、それを現地で展開していただくことを考えています。

また、こうした交流をきっかけとして、国際的に見れば、地震時の被害を最小限に抑えている現代の日本の耐震技術や減災の考え方、また被災者の痛みを最小限に抑える被災地支援の手法なども、現地の状況に合わせてながら検討して広めてゆきたいと考えています。

### 参考：

KASEI. r2 プロジェクト WEBサイト：<http://wp.kasei.kumamoto.jp/>

九州大学BeCAT WEBサイト：<https://becat.kyushu-u.ac.jp/>

熊本地震でのみんなの家の整備：<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/51275.html>